

第4回住民会議意見概要（総務部会）

日時：平成 28 年 7 月 19 日（火）19：10～21：05

場所：役場 3 階 庁議室

■基本計画案に関する意見

前回の議論を踏まえ、施策の展開について文章化した内容や職員からの指摘の確認、目標値の項目について以下のような意見がだされた。

まちづくり目標 1：みんなで考え、みんなで創るわくわくするまち

1.情報の共有でひらかれたまち

- ・「(1) 住民と行政との情報共有の強化」の新たな情報発信のあり方をめざすという文章の主語が「広報はえばる」に限定されているので、「行政情報」とした方が良いと思う。
- ・「(3) 情報化の推進」の「LINE、twitter」の表現は、今後 5 年、10 年と経過する中で、問題がおきて使われなくなっていたり、古い表現になる可能性もあるので、単語として表現するのが良いのか、「SNS」だけにするのか検討しても良いと思う。
- ・コミュニティ FM やネット放送局については、議会でも質問があり、現状としては取り組みは考えていないと回答している。

⇒現状として、新たにコミュニティ FM などの取り組みは考えていないかもしれないが、今あるラジオの活用などの展開を行政内部で議論しても良いと思う。

⇒目標値を設定する上で、例えば、「広報誌の全戸配布」という目標の設定は可能か。

- ・広報誌については、配布方法が自治会によって異なる状況なので、全戸配布という目標設定は難しいと思う。

⇒自治会に未加入の方が、税金を払っているのに広報誌が届かないという苦情もあると思う。広報誌などの行政情報については、本来は全戸配布されなければならないものだと思うので、配布方法について、これまでの自治会での配布だけでなく、自治会未加入者への対応というのが求められていると思う。

- ・自治会によっては、未加入者へ配布しているところもあるが、取り組みは自治会によって様々なので、全戸配布を目指すには、新たな仕組みづくりが必要になると思う。

2.自ら考え、行動するまち

- ・「(3) 人材の積極的活用」の「元気なシルバー世代の多様な人材～」の表現は、シルバー人材センターのイメージになると思うが、町長がシルバー人材センターはつくらないということを議会で回答しているので、この表現はどうかと思う。

⇒ここで表現している元気なシルバーとは、名人制度などに登録している方をイメージしている。誤解を招きそうな表現であれば、修正を検討する。

3.みんなで作るまち

- ・現況・課題についての職員からの指摘は、主体的まちづくりが具現化されているとの意見であるが、この項目については、これで良いという終わりが無いもので、常に更なる向上を目指すべきところだと思うので、この現状・課題の文章は残すべきである。
- ・施策の展開の「(3) 協働のまちづくりの実践」の職員からの指摘についても同様で、現状・課題の文章と関連して整理されているところなので、残した方が良いと思う。

まちづくり目標5：みどりとまちが調和した安全・安心のまち

1. 安全・安心に暮らせるまちづくり

- ・主管課や関連課について、「(3) 減災のまちづくりへの取り組み」では、まちづくり振興課が主管課になっているが、防災に関しては総務課が主管課になるのが適切だと思う。

⇒これは、まだ案の段階なので、各課や各部で確認して頂いて、主管課と関連課は精査していきたい。

- ・安全・安心に暮らせるまちづくりとして、防災や防犯の面での施策の展開が書かれているが、子どもたちが遊んでいる状況が確認できる見え方や死角をなくすようなまちづくりなどが、普段の生活の中での見守りや安全・安心につながっていくと思うので、その辺の表現があっても良いと思う。

⇒普段のまちづくりから安全・安心へのアプローチが必要という事で、その辺を意図しているのが「(3) 減災のまちづくりへの取り組み」の1番目の文章として整理している。

まちづくり目標6：環境と共生する美しく住みよいまち

1. 生活に身近な環境への取り組み

- ・「公共施設における長寿命化の検討」について、今年度、公共施設等総合管理計画を策定予定である。
- ・建物の長寿命化に関連して、南風原団地の庇が落ちて建替えになっているところがあるが、あのような状況を防ぐには、防水塗装をすることが効果的なので、維持管理の方法として検討しても良いと思う。

2. 地域を越えた環境問題への取り組み

- ・「仮称：南風原地球温暖化実施計画区域施策編」という計画を町民や事業者に配って実践してもらうという事か。

⇒現在、公共施設における温室効果ガスの削減への取り組みを行っているが、それを町民や事業所へも広げていく1つの方法として、計画を策定し、計画の概要版やパンフレットで啓発活動を展開して、できることから取り組んでいこうという意図である。

また、第四次では町独自の認証制度などの施策が掲げられていたが、取組みとして難しいと思うので、できるところから着実に進めていこうということである。

- ・ Co2 削減の取組みとして、住宅への壁面緑化や屋上緑化などへの取組みを推奨したり、緑被率を目標値として設定することも良いと思う。
- ・ 住宅の敷地内に高木を植える費用を町が助成したら、手を挙げる人も多いと思う。自宅の敷地内をきれいに手入れしている人も多いので、何かのきっかけで取組みが広がると思う。

行財政計画

- ・ 現状・課題の広域行政に関する文章で、「南部広域市町村圏事務組合」という固有名詞があるが、団体名を記載するならば、そこよりも関連が深い団体名の方が良いと思う。もしくは、「近隣市町等」で良いと思う。

- ・ 「(3) 健全な財政運営の推進」の中で、「人件費の適正化」という表現があるが、第四次ではこの表現はないので、どのような意図があるのか。また、人件費の適正化を図る指標が様々あるので、何を以て適正なのかを判断するのが難しいと思う。

⇒この文章については、昨年度からの住民会議での意見やアンケートをはじめ「行政改革大綱」や「財政健全化計画」などを参考にして文章化した。人件費について、様々な指標があるのであれば、まずその全てを出して検証することも1つの取組みであり、町民ニーズへの対応につながると思う。

- ・ 「(5) 職員の人材育成」について、非正規職員の人材育成への取組みは難しいのではないか。非正規職員が負担に感じる面もあるのではないかと思う。

⇒この文章は、本町においても非正規職員の割合が正職員を上回っており、担う役割も重要になってきていることから、必要な施策ではないかという意図がある。今後、行政内部の部会等で精査し、改めて、住民会議に案を提示したいと思う。

- ・ 非正規職員が配属された各部署で、仕事をしながら育成するという取組みは行っていると思うが、研修期間などを設けて育成するという取組みについては様々な意見が出てくると思う。

第4回住民会議意見概要（民生部会）

日時：平成 28 年 7 月 19 日（月）19：10～21：05

場所：3階庁議室

■基本計画案に関する意見

まちづくり目標 3 とともにちむぐくるでつくる福祉と健康のまち

1.ちむぐくるで支えあう安心して暮らせるまち

- ・（１）ともに支えあえるまちづくりの推進について、主管課は「総務課」になると思う。
- ・「あいさつ運動」が出てくるが、この内容については「まちづくり目標 1」でも位置づけるべき内容だと思う。
- ・孤立することがない環境づくりに向けて、民生委員や自治会だけでなく、ジャスコなどの商業施設や多様な事業所と連携し、支援を要する人を見つけることも必要ではないか。
- ・声をあげられず、悩みを一人で抱える人、支援を必要とする人を見つけ出す仕組みがつかれないか。
- ・（２）相談対応について。日常生活の中で相談できる仕組みがあるのでは。例えばヘアサロンや床屋などの会話で悩みが出ることも。その人たちが講習などを受けて、身近な相談相手となる、また相談窓口や支援につなぐなど。

2.健康づくりの推進

- ・精神疾患、こころの健康対策を入れる必要があるのではないか。

3.子育て支援の充実

（１）待機児童の解消

- ・「小規模保育事業の整備により」とあるが、整備は基本計画の期間内に終了することになるので、「小規模保育事業により」等の表現が適切ではないか。
- ・同様に保育定員の確保について、「新たな保育所の整備等により」とあるので表現の検討が必要ではないか。

（３）安心して子どもを産み育てるための支援の充実

- ・「母親クラブ」は名称が「ファミリークラブ」へ変更となった。

（４）子どもが安全・安心して過ごすことができる居場所づくり

- ・学童クラブの利用料助成については、一括交付金を活用しており継続性が課題である。

5.高齢者サービスの充実

(2) 高齢者の自立を支えるサービスの充実

- ・ミニデイや高齢者サロンに参加できない人が集まる場をどうするのか。既存の取り組みだけではなく居場所も必要ではないか。
- ・認知症対策については、当事者だけでなく介護者に対する支援も。

6.社会的孤立の防止対策の推進

- ・今の内容だと子どもの貧困対策だけになっている。広く住民の社会的孤立の防止を進めていくための「現状・課題」と「施策の展開」を検討する必要があるのではないか。

第4回住民会議意見概要（教育部会）

日時：平成 28 年 7 月 21 日（木）19：10～21：05

場所：3 階 庁議室

■基本計画案に関する意見

- ・基本構想を検討している時に、ICTをうまく使う。スマホ使用のルールづくりなどが出ていたが、どこに入っているのか。入っていない場合はどこに位置づけるのか。前年度の住民会議で話し合った内容が漏れている内容がないかチェックが必要。
- ・子どもの飲酒、喫煙、薬物使用、非行などの現状はどうなっているのか。非行対策を考える場合には何を中心に取り組んでいくのか。
- ・今、まちの中で以前のように、コンビニの前で集まる子どもを目にしない。不良は減ったのか。
- ・以前の非行少年のような子どもは少ないかもしれないが、引きこもりや不登校などに形が変わっているのではないか。また、外で集まるのではなく、保護者がいない友達の家に集まっていることがある。不良や社会的に孤立している子どもが減ったというよりも「見えづらくなった」のではないか。
- ・PTA 活動自体に対する行政の支援も必要ではないか。
- ・奨学金について、基本計画の中に位置づけることはできるか。
- ・環境教育は、どこかで明記されているか。
- ・県立ではあるが、南風原町に立地する南風原高校、沖縄盲学校を資源として捉え、計画で取り組みを検討することも必要ではないか。

1.安らぎと豊かな人間関係、生きる力を育む、家庭教育

（1）家庭教育の重要性の周知

- ・スマホ利用のルールを町で定めて良いのではないか。スマホを子どもに買い与えるのは親であり、学校の努力だけでは解決できない。浦添市では、市と教育委員会とPTAが連携して市におけるルールを決めた。
- ・携帯電話やスマートフォンの使用に潜む問題、危険性などについて親自体が良く理解していない。これらについて広く周知が必要。

（2）家庭教育を考える機会の充実

- ・沖縄県では家庭教育支援推進計画をもとに「親のまなびあいプログラム」を推進している。これを活用して南風原町で家庭教育支援の底上げが可能だと思う。また県では水曜日を「親子の日」として、親子で過ごす時間を設けることを推奨している。

2.地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

(4) 文化・伝統・芸能等の保全・継承、活用

- ・文化・伝統・芸能の継承の中心は、青年会や自治会、子ども会などが担っている。これら活動支援が必要。

3.個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育

(4) 子どもたちが安心してのびのびと学ぶ環境づくり

- ・危機管理能力の向上について、今の表現では安全マップの活用が中心となっている。前年度の住民会議でも出されたスマホなどの利用に潜む危険性とその対処なども、そこに含めることができるのではないか。

第4回住民会議意見概要（経済建設部会）

日時：平成28年7月21日（木）19：05～21：05

場所：役場3階 庁議室

■基本計画案に関する意見

まちづくり目標4：工夫と連携で産業が躍動するまち

1. 南風原産品を創り伸ばす農業の振興

- ・「(1) 農業基盤の強化」で、かんがい施設の整備について記載があるが、現在山川で行っている事業が終わると、その後は土地改良なども含めて基盤整備の予定はないと思う。
- ⇒施策の展開における具体的な取り組みに関する記述は、総合計画の実施計画（H29～31）で位置づけられていたものを掲載しているので、担当課に改めて確認してもらいたいと考えている。
- ・「地産地消」というフレーズは、分かりやすい表現だと思うので、「(2) 農業経営の強化」の出荷・供給体制の文章の中に、このフレーズを入れた方が良いと思う。
- ・「(3) 担い手の育成」の各種貸付事業とあるが、貸付事業だけでなく他の事業の方が多いため、「各種事業」とした方が良い。
- ・農業青年クラブは、若手の担い手の集まりで、積極的な活動をして頑張っているため、団体名を出してスポットをあてても良いのではないかと。
- ・「(4) 他産業との連携による六次産業化の推進」について、とことんこだわりをもって、調査研究し、どの食べ方が一番おいしいというものを情報発信することが重要だと思う。例えば、かぼちゃは、2週間追熟するとおいしいと言われるが、12日なのか、13日なのか、どのくらいの厚さに切った方が良いのか、どのくらいの時間ゆでたり、蒸したりするのが良いのかなど、こだわって追及し、その過程も含めて情報発信すると、それを見た人で南風原産品を購入してくれる人も出てくると思う。また、その調査研究に役場として食材費など少し支援すると手を挙げる人もいると思う。

2. 販わい・就労を創る商業、製造業、新規産業の振興

- ・現状・課題では、「情報通信産業」という表現で、「(2) 集積している産業を活かした新たな展開」では「情報関連産業」と異なる表現がされているので統一した方が良い。
- ・「(4) 企業進出の環境整備」について、取り組み内容が、とてもハードルが高いため、施策の展開のタイトルを「(4) 企業進出の環境整備の検討」としてはどうか。
- ⇒この項目は、昨年度策定した、総合戦略で位置づけられているところで、総合計画でも整合を取った形で表現している。また、記載内容としては、環境整備に向けた検討をすることとなっているので、この表現で良いと考えている。

3. 地域の連携で創る観光の振興

- ・観光で訪れた人に、どこでお金を使ってもらおうかということについて、もう少し貪欲に考えても良いと思う。そうすることで、観光協会の体制増員をはじめ、観光振興への次の投資につながっていくと思う。
 - ・本町でお金を使ってもらおうシステムを考えないと、観光振興の取り組みも続かないと思う。他府県の観光地では、まちづくりの視察に訪れる人から料金を徴収するなど、様々な取り組みを行っているので、その辺も参考にしながら、真剣に考える必要があると思う。そうすることで、町内の飲食店など様々なところに波及していくと思う。
 - ・観光振興を図る上で、宿泊施設を整備する予定はあるのか。
- ⇒観光振興計画の中では、当面は民泊などを活用した取り組みを推進し、長期的には宿泊施設の誘致などを目指すこととなっている。

4. 歴史と伝統を誇る工芸産業の振興

- ・町民が絆に親しめるような取り組みが重要になると思う。以前、役場の職員も「絆デイ」のような取り組みを行っていたので、その辺の取り組みを実施したり、学校教育においても、絆の歴史や体験学習などの取り組みを展開していくことが大切だと思う。
- ・琉球絆や南風原花織など、作っている方々の努力はすごいと思うが、外部に向けて発信する部分が弱いと思う。これまでの取り組みの、担い手育成や販路開拓等への支援も重要だが、情報発信にもっと力を入れるべきだと思う。
- ・観光との関連では、例えば、かすりロードに絆を織っている人のモニュメントを設置するだけでも雰囲気が違うので、絆の里であることのアピールをもっと展開するべきだと思う。
- ・以前、かすりロードで翔南小学校の子ども達が空手や伝統芸能を披露したり、絆の衣装を着てパレードするという取り組みが行われていたが、昨年からは、その取り組みが途絶えているので、このような取り組みを復活させることも重要だと思う。
- ・現在、本部にある空き家を芸大生に活用してもらおうことを検討しているので、アートと絆のコラボレーション等の取り組みは今後展開できるのではないかなと思う。

まちづくり目標5：みどりとまちが調和した安全・安心のまち

2. 快適で文化的に暮らせるまち

- ・「(8) 上水道の安定供給と下水道整備の促進」で、上水道の安定供給に努めるという文章があるが、上水道については、「南部水道企業団」が行っているなので、記載が適切かどうか判断する必要がある。
- ・同様に、公共下水道に関する文章があるが、汚水と雨水を分けて整理した方が良いと思う。修正案も考えたので、参考にしてもらいたい。

3. 利便性のよい魅力あるまちづくり

- ・「(1) 広域交通幹線軸と連携した町内道路交通ネットワークの整備」で、自転車道に関する記述があるが、この辺の整備は県の対応となるので、このまま掲載することが適切なのか、改めて判断した方が良いと思う。
- ⇒県が整備主体になると思うが、車中心の交通から転換するキーワードとして挙げている。行政職員の中でも自転車通勤の方も増えているという話もあるので、可能性があるのであれば、町としても水と緑のネットワークとセットで考える価値はあると思う。
- ・自転車道を整備する際には、普段から自転車を利用している人の意見を聞くことが重要になると思う。
 - ・「(2) 公共交通の利便性の向上」の文章の順番について、公共交通のあり方を総合的に検討することからはじまり、次にコミュニティバスなどの検討、路線バスのあり方の検討を行い、最後に LRT 等の検討という流れが良いと思う。まずは、総合的に検討しつつ、今ある基盤の有効活用策を検討するのが良いと思う。